

市民人権講座 in 香良洲を開催

「新型コロナウイルス感染症に伴い繰り返される偏見や差別～このサイクルを断ち切るために～」

昨年12月4日に、サンデルタ香良洲多目的ホールで市民人権講座を開催し、反差別・人権研究所みえ調査・研究員の原田朋記さんに講演していただきました。

原田さんは「人は一人一人違うのに、自分の価値観や判断基準だけに基づいて、デマや不確かな情報、事実の一部だけで判断し、差別や排除をしていないか」「コロナ禍でウイルスを遠ざけるべきなのに、心ない誹謗中傷が人を遠ざける行為につながっている。ワクチンや特效薬が開発されれば、感染に対する不安は少なくなるかもしれない。しかし、『熱があっても言い出せない』『喘息で咳をするのはばかられる』といった現実があるのは、感染者やそれに関わる人たちを避けたり排除したりする行為が、社会の中で繰り返されているからだ」と話されました。

「東日本大震災では、原発事故の被害者や避難した人が差別や排除されるという『福島差別』が生み出された。あれから9年が経過し、最近はそのような声をほとんど聞かなくなった。未曾有の災害によって表出した差別意識や偏見が、時間と共に人々の意識の中に潜り込み、現在、未知のウ

イルスの出現によって再び差別や偏見が表出していることを考えれば、同じことを繰り返しているといえるのではないかと続けられました。

最後は「皆さんが暮らす地域が『新型コロナウイルスに感染したら、周囲の目が気になってここでは暮らせない』などと思わなくてもいい、誰もが安心して暮らすことができる地域であってほしい。そのために、私たち一人一人が不確かな情報や偏見に惑わされず正しく判断できる力を養うことが大切だ」と呼び掛けられました。

参加者からは「私たち一人一人が差別の現実を自分事として捉えること、そして、人権尊重の輪を広げていくことの大切さを感じた」「知らず知らずのうちに新型コロナに関する偏見や差別につながる意識を持ってしまっていることに気付くことができたので、これからは自分自身の意識を問い直して生活していこうと思った」との意見がありました。

津市では、毎年、市内各所で市民人権講座を開催しています。私たち一人一人が、人権問題を自分の問題として受け止め、人権感覚を磨きながら、誰もが生き生きと暮らせる社会を一緒にめざしていきましょう。



津市人権講演会を開催

「外国人に対する決め付けや先入観を捨てて」

昨年12月5日に、サンヒルズ安濃ハーモニーホールで山形弁研究家のダニエル・カールさんを招いて津市人権講演会を開催し、100人の来場者の皆さんが、山形弁でのユーモア溢れる話を熱心に聴講しました。

カールさんが、高校時代に奈良県五條市の学校に留学していた頃、市内で唯一の外国人であり、周りの人から物珍しい目で見られていたこと、佐渡島で文弥人形遣いの弟子入りをしていた頃は、パトカーに乗せられて警察署で根掘り葉掘り事情を聞かれたこと、そして、大学卒業後に当時、山形県初の英語指導主事として学校で英語を教えて

いた時のことなど、自身の経験を共有した上で「外国人に対する先入観を捨てて、自分の言葉でいいので話し掛けてもらえればいい」と話されました。

講演に参加した人からは「外国の人が日本の文化をどのように見ているかを分かりやすく伝えてくれたのが良かった」「自分たちが当たり前と思っていたことが、外国人から見ると疑問を感じることがあることが分かり、常に相手に寄り添いながら接していかなければならないと感じた」

「外国人をひとくくりにして考えてしまうような偏見や固定観念の存在に気付かされ、ものの考え方を見直すきっかけとなった」などの感想がありました。

津市は県内でも外国人が多く住んでいるまちです。私たち一人一人が文化・習慣の違いを理解しながら、多文化共生社会の実現に向けて取り組んでいきましょう。